

# 地域で自分らしく生きるために

〜大山町保健・医療・福祉連携

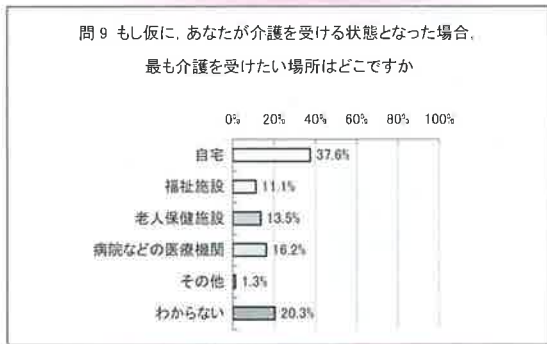
体制づくりの取組について

## 見えてきた実態

大山町では、平成19年度から「人生の終末期を在宅で安心して過ごすことができるように、地域の医療資源や福祉資源の効果的なネットワークづくり」について、医療や介護に関わる関係者による協議会を設立し、検討を重ねてきました。

平成20年1月には、住民4000人を対象にアンケート調査を行いました。

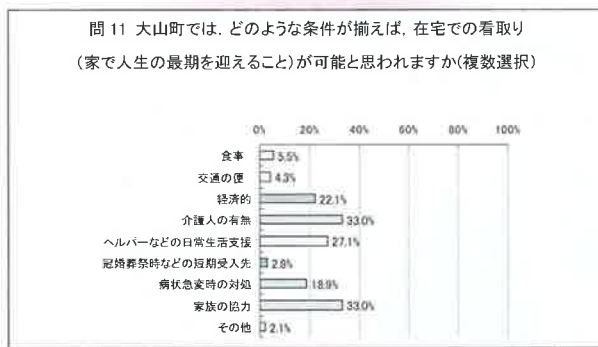
その結果、在宅での介護を希望する方が、約38%（アンケート結果①）おられることがわかりました。



▲〈アンケート結果①〉

またアンケート結果②より、在宅での看取りの条件

として求められていることは「介護人の有無・家族の協力・ヘルパーなどの支援・経済的負担・病状の急変時の対応」などでした。



▲〈アンケート結果②〉

## 在宅で過ごすために

協議会では、本人が「終末期を在宅で過したい」という意思を持ったとき、どうすればそれが実現できるのか、その仕組みづくりについて、現在検討を続けています。



協議会の様子。会はすでに10回開かれました。

## 「見守り活動」の輪が広がる

町ではこのほど、大山乳業農協グループと「鳥取県中山間集落見守り活動」協定を、県も交えた3者協定として締結しました。この協定の内容は、協定先の社員などが毎日の業務の中で、住民の異変に気づいたときには町へ、また緊急の場合は、警察や消防署へ連絡していただき必要な対応をするものです。協定は県内の全ての市町村が締結しましたが、協定書の調印式には西部市町村を代表して森田増範町長が出席しました。



▲左から県西部代表の大山町、中部代表の倉吉市、鳥取県、東部代表の岩美町が調印式に出席しました。

なお本町では、平成20年6月に日本海新聞社及び日本海新聞を発展させる会、また平成21年6月に鳥取西部農協、さらに12月には山陰中央ヤクルトと、それぞれ3者協定を結んでいます。「地域見守り活動」は、安全で安心して暮らせる町づくりのため、大きな力になるものと期待されます。